
song series SS

クノウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

song series SS

【Nコード】

N1314A

【作者名】

クノウ

【あらすじ】

最終兵器彼女の短編SS。

SNOW

涙のかけらは、掌に包み込んだ。

その日から、私はあなただけを探して彷徨った。

この道を行けば、きっと失った思い出がよみがえってくる。

何も恐れることはない。

それだけを信じて……

終わらない戦いという季節に何度も立ち止まった。

けど今は、ただあなたへの想い。

それを信じてる。

ただそれだけでいい。

その想いはきつと、まっ白に吹き抜けてゆく。

どこまでも果てしなく。

私のこの胸の痛みと一緒に消えてゆくだろう。

埋め尽くされていく……

どこまでも……

満たされてゆく……

なにもかもが、貴方への想いで。

あなたの傍でなら私は生きていけるだろう。

小さな希望の光は、この胸にしまい込んでしまった。

あの日から私は、あなただけを見つめて過ごしていた。

いつでも貴方を探し、振り返るばかり。

何も見えなかった。

でも、永遠に閉ざされていたはずの扉が今、目を覚まし開かれる。

希望の扉が……

震える肩を抱きしめてくれるだろうか？
一人で過ごす夜はもう嫌だ。

凍える指先を暖めてくれるのだろうか？
私の側にあなたがずっといてくれる。

貴方と私の未来への扉は開かれたのだから。

- E N D -

SNOW（後書き）

< font size="2">一応、ちせの気持ちを表現してみました。

そしてすみません。この話はパクツてます。

盗作とかじゃないんですが、ある歌の歌詞をモデルに色々付け加えてみました。

でも、完成されてた詞なので3、4割ぐらいしか変えてません。ってゆうか変えられませんでした。

なのでどこかポエムのような歌詞のような、訳の分からない文章になってます。

これを書こうと思ったきっかけは、純粹に歌の内容が最彼と似てたから。

この歌は、“悲恋”を題材とした歌なんです。

実は、2003年度で一番好きな歌がこの「SNOW」という歌です。

影二つ

あの始まりの日――

二人で始めようって決めたあの日――

ここから初めていこうって決めたあの日――

まだ幼くて弱い二人だったけど、どこか強がって、お互いに背伸びをしていたね。

背中を押すように吹く風を受け、笑いあったね。

振り返ればとても懐かしいあの日々……

駆け出した君の足音、今でもこの耳に残っている。

どんなに遠く離れていても君の“声”は私に届く。

ほら「トクン…トクン…」て…

私はもう一人じゃない

―― 影二つ ――

高く―― 遠く―― 響く―― 貴方への想い

この胸に大切に抱いて

この胸に育んだ想いを言葉に変えよう。君に伝えるために…

どこまでも…… どこまでも暖かな貴方と手を繋いで

貴方との二人の未来…… 私たちは語り続ける。語りつづけられるように。

-
終
わ
り
-

影二つ（後書き）

< font size = 2 > S N O Wと同じで、これも“影二つ”
という題名そのままの歌を元に書いてみました。

場面としては、最後にシュウジがちせと共に地球を離れていくところ
です。

そんなシーンを感じていただければうれしいです。

ちなみに、S N O Wも影二つもゲームの歌です。 < / font >

小さな手のひら

遠くで…… 遠くで 揺れてる 命の灯火。多くの奪われた…… 奪
ってきた命

遙か彼方、目指した強さへと

私は今日までの、悲しいこと全部覚えてる……… 忘れない――
。

小さな手にもいつからか求めていく強さ。冷たい雨の中、泣いてた
あの日から歩いた。

小さな手でも離れていても、私はこの道行くんだ。いつか来る終わ
りの日は一番の思い出を刻んで 時は流れ行く……… もう冷たい
風が…… 包まれて眠る……… あの貴方ラッソングの歌の中で

小さな手にもいつからか求めていく強さ。涙で濡れた頬には、どれ
だけの悲劇が映った……

小さな手でも離れていても、私はこの道行くんだ。そして来る終わ
りの日は一番の思い出を刻んだ

小さな手でもいつの日か私は辿り着いてみせるんだ
やがて来る終わりの日は、新しい旅が始まる

- 終わり -

小さな手のひら（後書き）

< font size=2>これは、ポエム？詩？小説？

まあ、好きなゲームの歌の歌詞を元に書いたSSパート3です。

歌で泣くという経験を、この歌で久しぶりに味わいましたよ。

ちなみに、最彼EDの「サヨナラ」でもウルウルきました。

SSは……なんだか無理やりになってきてますね。

元々、最彼の雰囲気合わない曲だったので、頭の中でイメージするのが大変でした。

でも自分では、ちせの想いや感情がこの短い文の中にかなり表現できたと思っています。

みなさんはどのように感じたでしょうか？そこら辺の感想もお願いします。 </ font>

days

罪という名の—— 追憶の—— 永遠の罰——

心から溢れ出す雫は消え 悲しみに——

月が輝いている 映し出される顔——

信じたい

遠き日の

—— あなたと過ごした あなたと笑って 楽しんで 泣いて
喧嘩したりした——

あの安らぎを……

夢から覚めた夜に あなたのぬくもり探し求め
寂しさ紛らさせるあの人の言葉さえ 心に届かないまま 静かに時は過ぎゆく

あなたを待っているのに ねえ まだ会えないの……

「恋」という名の私の「ワタシ」というカタチ いつか出会える——

—— 遠き日を祈っても拭えずこの恋が消え去る

凍えた“心”には

人知れぬ

白き火の

十字が……

あとどれくらい明日を向かえれば

この想い あの人に 届くの……

届かないなら愛しい願い 忘却のこの海に沈めて

儚き時よ 切なき明日よ 零れゆく 悲しみを包んで

誰より強く この傷より深く 永遠のなか 眠らせて

あなたの傍で…… 私を……

L a s t r e g r e t

サヨナラは言わない。言えない…… ずっとしまっておく

サヨナラは翳らない

夢のような出来事の跡…… 私は静かに降り立つ

両手には何処から降り注ぐかけらを

いつまでも…… いつまでも抱いて

最後まで、あなたを想う強さを

もう知っていた

ただ怖かった

おはよう 今日の目覚めも

眩しくて悲しい

さよなら

自分が許せない 私の弱さがもどかしかった

ふたりには ありふれた幸せ

花のように 恋のように 彷徨う

低い雲 風を待つ静けさ

もうなにも聞こえない

あなたの声以外は

両手には降り注ぐかけらを

いつまでもいつまでも抱いて

最後まで恋してる強さを

もう知っていた

もう泣かない もう泣かない 泣かない

もう泣かない もう泣かない 泣かない

あなたがこんなにも傍に居てくれるのだから

あなたを想いたい

冷たい雨が降りはじめて街は闇に包まれてく
ガラスをすべる雫はまるで夜空を駆ける流れ星みたい
そんなゆるやかに流れるひと時 あなたを想って
大切に育む想いは それだけで幸せにさせてくれる

形のないこの恋心 もっと楽しみたい
もう少しこのままで あなたを想いたい

冷たい雨はいつのまにか消えて 闇は晴れ渡る
夜空を照らす星たち まるで落ちてきそうだね
大好きなあなたの仕事を一つ一つ思い出す
立ち止まり星空見上げて この幸せに感謝しよう

時おり来る胸の痛みを 切なく楽しみたい
もう少しこのままであなたを見ていたい

形のないこの恋心 切なく楽しみたい
もう少しこのままであなたを想いたい

時おり来る胸の痛みを 切なく楽しみたい
もう少しこのままであなたを見ていたい
わたしだけを見つめていて……

もう少し……

この地球^{ほし}が……

私が……

終わる時まで……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1314a/>

song series SS

2010年10月11日02時19分発行